

香春岳（三ノ岳）

福岡県 田川郡香春町 2025年 10月28日

山帰来やムベの色着いた実に秋実感！

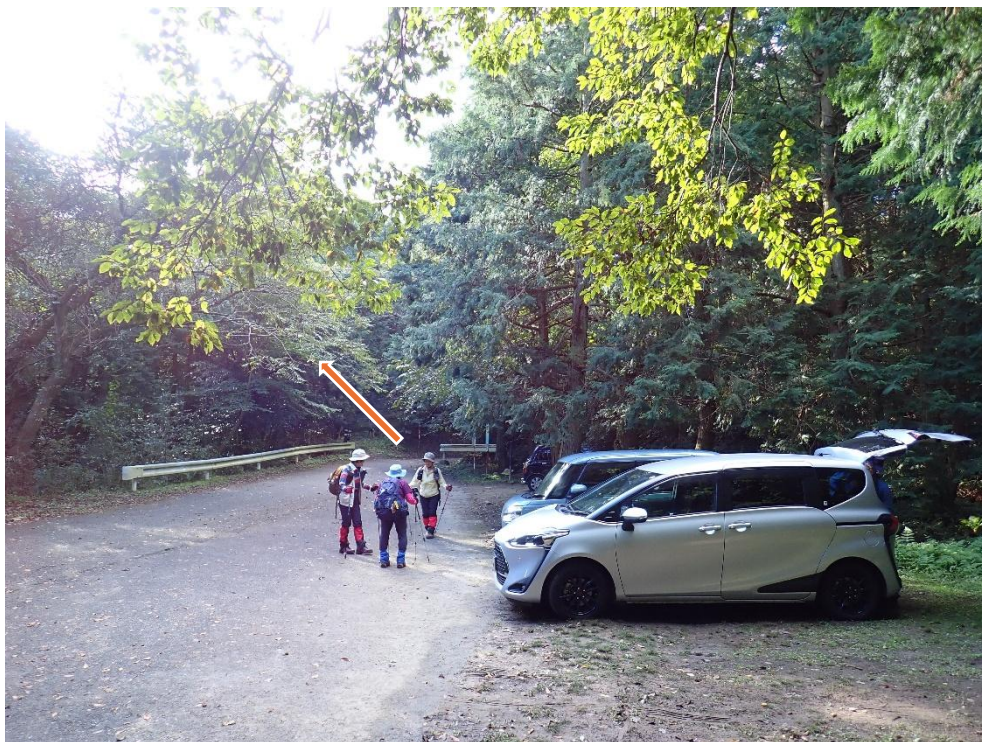


下山途中に見つけたムベの実

本日のコース <全行程 3時間18分>

五徳峠駐車場 9:15 → 香春岳登山口 9:23 → 分岐 9:30 → <ファミリーコース> →
三ノ岳山頂 10:27 <昼食休憩> 11:39 → 分岐 12:23 → 香春岳登山口 12:32 →
五徳峠駐車場 12:33

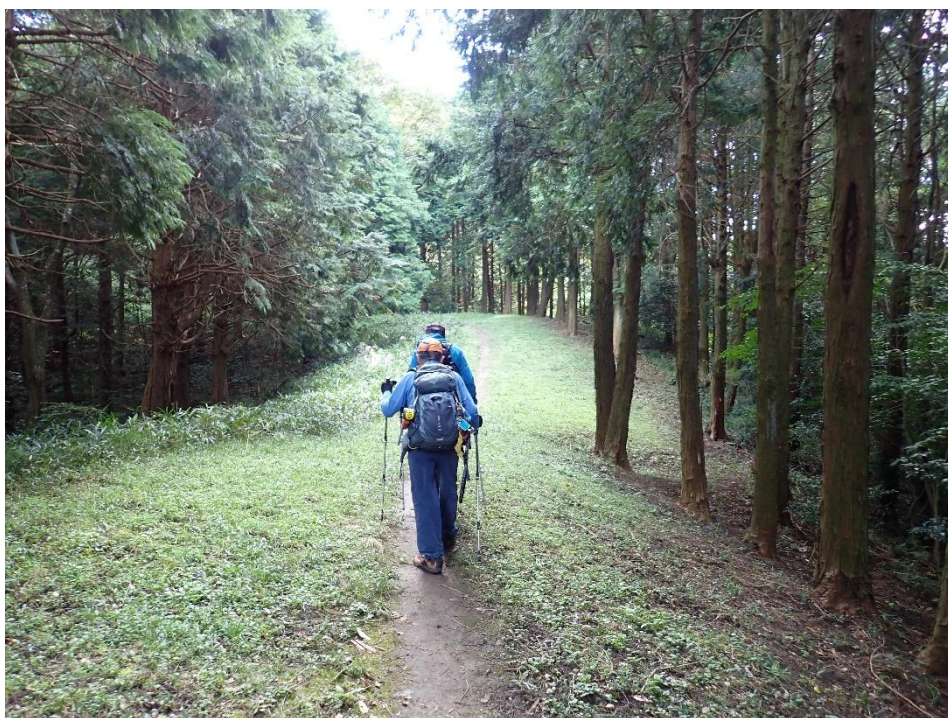
12年振りの香春岳(三ノ岳)だった。今回はT師匠とT井夫妻とそのお友達の合計6人での登山。皆さん健脚でスイスイと上って行く。途中で山帰来(サルトリイバラ)の赤い実がたくさん目についた。暑くて長い夏も去り正に秋到来だが、山頂は寒くて冬もすぐそこに来ている。



五徳峠駐車場 9:15 5～6台位止められるスペースはガランとしていた。
五徳峠からはルートが二つ。一つは左の香春岳登山口。右手は牛斬山登山口となる。



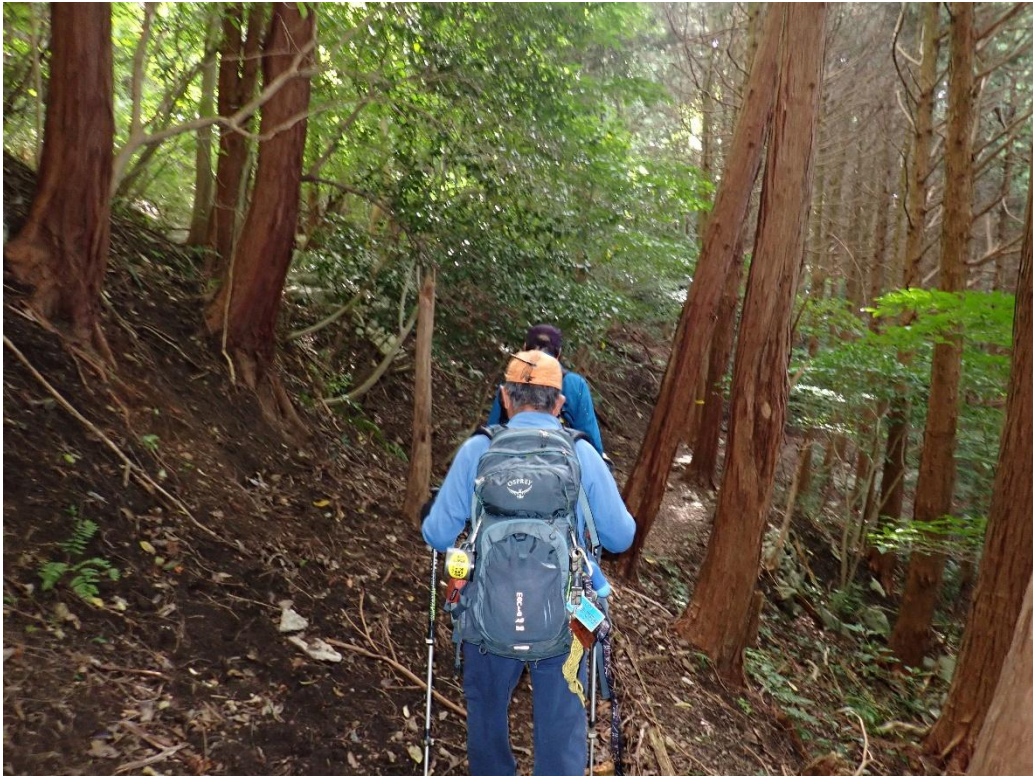
香春岳登山口 9:23 いよいよスタート！



登山口からの茂みを抜けるとすぐに歩き易い道に出る 9:28



分岐 9:30 我々はこの分岐を右へ
ここで、ファミリーコース(右)と岩登りコース(直進)に分かれる



樹林帯を進む 9:35



ズリネ間歩(まぶ)の説明板

以前この説明板を見たのは12年前だった。かなり傷んでいて、上下の文字が欠けている。

そこで、12年前の2013年に撮影した写真(下の写真)を探してみた。



香春岳は「豊前風土記逸文」(713)に銅が採れると記されているように古代より鉱山として全国的に有名でした。清祀殿(県指定)にて銅を精錬、鑄造し、御神鏡を宇佐八幡宮に奉納していたことや宇佐と長門国長登銅山との繋がりが奈良の大仏に使われたこと、採銅使が置かれ奈良～平安時代には、皇朝一二銭に使われたと言われています。(説明板より)

実はこの説明板からすぐ上に洞穴があるはずだが、現在は茂みで覆われているようだ。



ズリネ間歩(まぶ) (2013年4月27日撮影)

三ノ岳周辺には、ズリネ、宗丹、床屋、水晶、横鶴などの鉱山が知られるが、戦国時代から江戸初期にかけての博多の豪商「神屋宗湛」に由来する宗丹鉱山(間歩)もあり、江戸期には、香春の町中に銅銭の鑄銭場もありました。昭和30年代まで採掘を行っていたが、今では間歩のみ残っています。(説明板より)



アケビ(中身はない)を登山道上で発見！ 9:39



下り勾配になって快調に進んでいると 9:42
黄色の道標が二つあるので見てみたら・・・



三ノ岳の近道があったがパスした 9:42



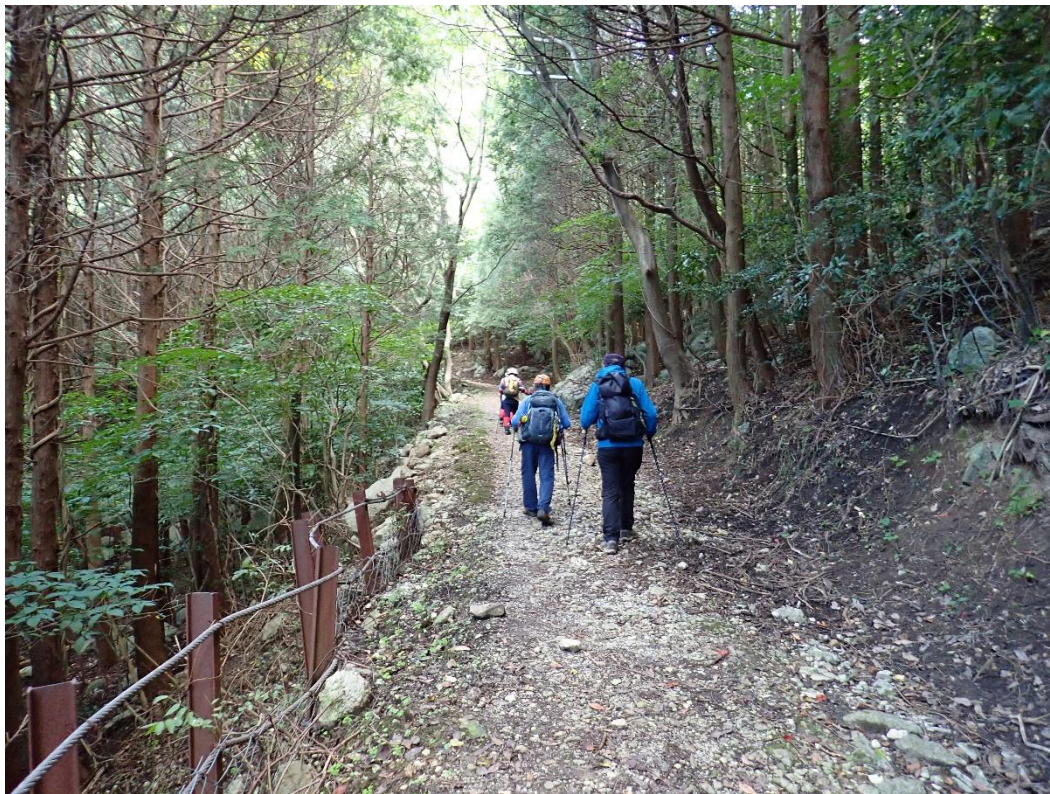
登山道表示のルートを進む 9:42



ここが最低鞍部か？ 9:43 ここからは上りとなる



登り返しがちょっときつい 9:48 ロープを頼りに上って行く



整備された巡回路に出た 9時49分

我々は巡回路に出て左に進み三ノ岳へ。右に行くと二ノ岳だが立入禁止になっている。



三ノ岳と二ノ岳の鞍部からいよいよ三ノ岳山頂を目指す！ 10:07



尾根に乗った。あとは真っすぐ進むだけ。 10:08



山帰来(サルトリイバラ)の赤い実が目立つ 10:23



足下には小さな花がひっそりと咲く。シラヤマギクかな？



どうやら山頂に到着したようだ 10:27 登山口を出発して1時間と4分だった



三ノ岳山頂で記念写真 508m 山頂からの眺望を楽しんだ。



左手前は牛斬山、奥に続いているのは福智山系
以前、JR 採銅所駅からJR八幡駅まで約30キロを縦走したのを思い出す。



三等三角点



左手前は竜ヶ鼻。中央奥に見えるのは貫山(平尾台)。



少し霞んでいるが、鷹ノ巣山や英彦山も見える。



景色を楽しみながら、のんびり昼食休憩。気がつけば1時間以上経っていた。

重い腰を上げ、山頂碑に別れを告げて下山に取り掛かる 11:39



下山途中に見つけたムベの実



山椒の葉



急坂の下りは慎重に 11:52 快調に下るベテランの二人



急ぐことなく一步一步



巡回路を進むと… 12:08 前方に二ノ岳への立ち入り禁止の柵が見えてきた
この柵の手前から五徳峠の登山口へ下る



分岐まで戻ってきた 12:23 振り向いてパチリ



無事に下ってきて安堵。ホッとして足取りも軽くなる。



香春岳登山口 12:32



五徳峠駐車場 12:33 ゴール

3時間18分の山歩きが終了

スマホの歩数計は9692歩。

T師匠、T井ご夫妻とそのお友達お二人、大変お世話になりました。

お疲れさまでした。